

『第6次朝日町総合発展計画見直し（案）』に係るパブリックコメント結果

第6次朝日町総合発展計画の見直しに向けて、同計画の案についての意見募集（パブリックコメント）を、令和4年12月20日（火）～令和5年1月20日（金）にかけて実施したところ、1名の方からご意見をいただきましたので結果を公表します。

ページ 及び テーマ	意 見	意見に対する考え方
<p>p. 28 子育て</p> <p>p. 43 医療・ 福祉</p>	<p>(1) 町づくりの中に、「定住しやすさ」という視点と具体策を 私が提案したいのは「定住しやすい町づくり」、つまり「町での暮らしを継続しやすくする」という視点を盛り込んで実際の施策に取り組んで頂きたいということです。また、それに際して具体的に子育てと医療についての提案をしたいと思います。以下、「移住者」としての視点から意見を述べさせていただきます。</p> <p>(2) 移住者としての朝日町の現状 我が家は主人も自分も移住者で、町内はおろか山形県内・東北地方に頼れる親族はおりません。保育園に通っている子供が二人おり、夫婦共働きで四人暮らしの生計を立てています。家族全員朝日町での暮らしが好きで、希望としては都市部よりも朝日町で暮らしていきたいという思いを強く持っています。</p> <p>その一方で、現在の朝日町は「困った時に頼れる外部のサービスや制度」が少なく、「血縁の無い移住者にとっては暮らしを継続させにくい環境」ができてしまっているとも感じます。そのことを強く感じるのは、主に育児環境についてです。</p> <p>我が家は共働きですが、両親が仕事をしている時に子供を預かって頂くサービスは、町内には保育園しか存在しません（「ファミリーサポート制度」もありますが、これはあくまでボランティアの制度なので、相手の方が引き受けられない場合は利用することができません。常に託児を依頼できる制度ではないということで、ファミサポはここでは除外させていただきます）。両親が共働きの家庭では子供が病気で保育園に行けない時など、どうしても家庭外の人間に子供の世話を依頼する必要があると思っておりますが、都市部ではこれを病児保育、ベビーシッター等の有償サービスが補っています。一方で、朝日町ではこういったサービスが存在せず、全て家庭内で何とかするしかない環境が生まれてしまっています。</p> <p>この3年来、保育園でも感染症予防対策に尽力しておられ、少しの体調不良でも子供を通院、自宅で療養させなければならない事態が増えました。特に3歳未満の子供が登園できない事態は非常に多く、私自身仕事をしている親としてそれだけの回数、しかも前触れなく突然子供が保育園に行かせられなくなり、自分の予定が全て崩れてしまうという状態は、精神的にも経済的にも正直なところ苦しいものがありました。朝日町では祖父母世代と同居しているご家族も多く、こうした事態には家族の中で交代して子供の世話をすることで乗り切っているご家庭もあるようですが、先述の通り家庭外に頼れる人間の居ない移住者家族にとっては、頼るものが自分たちしか無い環境、誰にも代行を頼めない環境です。</p>	<p>「定住のしやすさ」という観点から、移住者としての立場で貴重な御意見をいただきありがとうございます。町では、対応すべき課題の一つとして人口減少対策を掲げておりますが、近年は少子化の急速な進展とともに、結婚や出産に伴う町外転出が顕在化しております。移住だけでなく、地元への定住を促すためには、特に、女性が住みよいまちづくりという視点が重要です。その中で女性の社会進出や負担軽減を図るため、子育て環境の充実は今後も行う必要があります。</p> <p>御意見をいただいた中で、病児保育サービスにつきましては、これまで近隣市町との広域利用を進め、令和3年度からは村山地域の7市7町からなる山形連携中枢都市圏における連携事業において、広域利用ができるようになりましたが、町外施設で時間がかかる等利便性の点で課題があることは認識しております。</p> <p>御提案いただきました、保育園外の病児保育サービス設置につきましては、医療機関への併設の方法が考えられますが、そのためには小児科医療機関の協力が不可欠であります。</p>

私事ですが我が家は主人が出張することも多く、たった一人で子供たちを長期間見ていなければならないこともしばしばありました。自分しか頼るものが居ないのだ、自分だけは絶対に倒れられないのだと常に責任を感じつつ子供の面倒を見ることになるのですが、その際に急に学年閉鎖になってしまったり、風邪症状があるからと通院と自宅療養を依頼されたり、また病気のこととなるといつ回復するものか見通しが見つからないこともあり、先行きの見えない中で一人きりでの緊張状態が続き、大きな疲労と精神的負担を感じました。

あくまで個人の体験談ではありますが、同じことはひとり親のご家庭についても言えるのではないかと想像します。また同じ保護者の方々から聞き及んだところによると、祖父母との同居家族であっても祖父母・父母共に仕事が忙しく、子供の世話を家庭内で行うことに苦慮されるご家庭もあるとのことでした。大家族の素晴らしいところが沢山残っている朝日町だとは思いますが、時代は変わり、現在は同居家族であっても保育園外の託児サービスへのニーズは高まっているのではないかと感じるエピソードでした。

(3) 現状を改善するための具体案

こうした現状が続けば、移住者としてはやはり町での暮らしを続けていくことを困難に思うことが増えると思います。また、これから結婚・子育てをしたいと考える町民にとっても、祖父母の力を組み込まなければ育児が難しい環境となれば、それを希望しない町民にとっては町外での結婚・育児を選択する一因ともなるのではないかと思います。

こうした環境の改善案として、以下を提案します。

- ・ 保育園外の病児保育サービス（有償）設置
- ・ 保育園外の託児サービス（有償）設置
- ・ (小児科の設置努力)

感染症予防対策が今後も引き続き行われていくことを考えると、子供の通院、自宅療養が求められるケースは引き続き頻発すると思います。その際に病児保育のサービス、また可能であればきちんとした小児科が町内にあれば、町での子育てのしやすさは格段に高まり、結果として「教育文化：2-1 子育て」に挙げられている各種目標を実現するのに効果を発揮すると思います。

現在、病児保育については他市町村でのサービスを受ける助成がありますが、やはり遠方であり時間と手間暇がかかってしまうことを考えると、自分は頻繁に使うことは難しいと感じます。また、託児サービスについては、病中病後でない子供を外に預けたいけれど、保育園には難しいということがあると考える為、併せて提案します（土曜保育、日曜保育など）。

なお、保育園外と書いたのは、保育園の先生方のご様子を見て、既に全力で子供の保育に取り組んで頂いていることが十分伝わってくる為です。もしも保育園内で病児保育に新たに取り組まなければならないとすると、施設の拡充や人員を増やさなければならず、その状況次第では期待された機能を十全に発揮できないまま、現場の先生方に無理が来てしまう結果になるだけなのではないかと懸念する為です。別の組織を外部に設け、採算がとれるよう町からの補助金なども予算に組み込んで、機能させていくことはできないだろうかと考えます。

しかしながら、町内に緊急時の対応ができる小児科の医療機関がなく、また小児科の誘致も難しいことから、現時点での設置は困難であると考えております。その中でも、今後、どのような形をとることができるのか模索してまいります。

また、託児サービスにつきまして、様々なサービスが考えられる中、今後予定している「朝日町子ども・子育て支援事業計画」の見直しに向けて、町民委員で構成される子ども・子育て会議や、子育て世帯へのニーズ調査により、子育て世帯が求めるものを把握することとしております。子ども・子育て会議の委員選定につきましては、それぞれ多種多様な立場や環境の方からの意見をくみ取れるよう留意するとともに、一般公募を導入する等、幅広く町民の参画が実現されるようにいたします。さらに、ニーズ調査につきましても、結果の分析においては単純な意見の数だけでなく、町の子育て施策としての重要性を鑑み、少数意見であってもその必要性を見極めたいので、計画の策定を行います。

具体的に、現在でも町外民間事業所により、朝日町内へのベビーシッターの派遣サービスが提供されておりますが、その利用に対する助成等、今後の子育て・少子化対策としてニーズに応じ必要な施策を検討してまいります。

(4) 以上の提案によるメリット

定住しやすい環境を作るという視点から、具体的に子育てと医療に関する提案を述べてきましたが、それによって町にとっては以下のような利点が生じると考えます。

- ・移住者を誘致する際の、大きなアピールポイントとなる
- ・町内が住みよくなり、転出者が減る効果が期待できる
- ・主に女性が担いがちな子育ての環境が改善され、結果として女性の働きやすさにつながる
- ・町内で結婚、子育てを希望する人が増える効果を期待できる

これらは、現在の総合計画見直し案の大意に沿うものと考えます。移住者誘致についてですが現在、移住者を呼び込みたい市町村は全国各地に存在します。朝日町には朝日町にしかない自然環境の豊かさや各種取り組みなどもあり、また新規移住者への経済的支援などもあるので、これは移住者にとっては嬉しい魅力として映ると思います。ただ、自分自身がここに暮らしていると思うのは、移住者にとって一番大事なのは、「飛び込んだ環境での暮らしをどう維持しうるか」ということではないかということです。新規で交付される経済支援はあくまでボーナスのようなもので、いつまでも財布に残っているものではありません。長期的に仕事が上手く行かなかったりワークライフバランスが上手くとれなかったりということになれば、行き詰まって結局町から出て行ってしまいう可能性は十分に考えられると思います。

そんな時、計画の中に「町で定住しやすくすることを目指す」ということが盛り込まれていると、移住者にとっては一つの大きな味方を感じられると思います。少なくとも「朝日町は、町としてそういったところにも目を向け、応援してくれているのだな」という気になり、とても心強く感じられますし、自分自身も何か町に関わっていこうという気持ちにもなるかもしれません。そして、それはそのまま、移住者誘致に際しての、大きなアピールポイントとなるのではないかと考えるのです。本気で移住を計画している希望者にとって、「移住した後のことも町から応援してもらっている」ということは、誰にも成功が確約されない移住という事業へ踏み出す第一歩として、案外小さくない魅力として映るのではないかと考えます。また実際にそうした環境を整えば、既に町に住んでいる地元民にとっても住みよい環境ともなるので、町外へ転出する町民が減る効果も期待できるのではないかと考えます。

最後に、私自身大好きでとてもお世話になっていて、いつまでも住みたいと思う日町だからこそ、町の状態に合わせて長く住めるような移住者にはもっと増えてもらいたいと思いますし、自分で提案したことが実現される為に町民の一人として何かできればとも考えています。この一年間、実際に子育ての代行を依頼できる制度やサービスが無いことで、先行きが暗いと感じてしまうこと、追い詰められていると感じてしまうことが何度ありましたが、逆にこうした環境を自分も関わって何とかしたい、こんなに素敵な朝日町なのに住みにくくなってしまふのは勿体ない、と強く思うようにもなりました。どうぞご検討の程、よろしく願いいたします。

そして、現在朝日町では、地域の有償ボランティアによるファミリーサポートセンター事業により子どもを預かるサービスを実施しておりますが、今後、サービスを提供する会員の充実に努めるとともに、保護者とサポーターの交流・情報交換ができる場の提供により、お互い顔の見える関係づくりを進め、移住者を含む共働きの核家族やひとり親家庭でも安心して子育てができるよう、地域における子育て支援の制度も含めて環境の充実に努め、より定住しやすいまちづくりを目指してまいります。

いただいた御意見につきましては町としてしっかりと受け止め、今後のまちづくりに活かしてまいります。

◆問合せ先 〒990-1442 朝日町大字宮宿 1115 番地
朝日町役場 政策推進課 総合政策係
TEL : 0237-67-2112 FAX : 0237-67-2117
Mail : senryaku@town.asahi.yamagata.jp